

さらに信頼のおけるナビゲーターとしての大学図書館へ

獨協大学

図書館長
外国語学部ドイツ語学科教授

山本 淳様



1883年に創立された獨逸学協会学校を起源とし、大学としては創立60年、学園としては140年以上の歴史を誇る獨協大学。外国語教育に力を入れ、特にドイツ語教育においては長い伝統を持ち、専門性の高いカリキュラムを展開。加えて、国際社会で活躍できる人材の育成を目指し、多様な語学プログラムや留学制度の充実にも力を入れておられます。図書館もまた、グローバル教育を支える重要な拠点として、蔵書の充実にとどまらず、学生の学びを支援するさまざまな取り組みを行っておられます。

今回は獨協大学図書館長であり、ドイツ語学科の教授を務めておられる山本淳様にお話を伺いました。

獨 協大学には、1883年に創設され、明治日本の近代国家建設に参画した獨逸学協会学校の「実学の伝統」と、第2次世界大戦後の民主教育の発展に貢献したカント学者で、1964年に獨協大学を創設した天野貞祐が標榜した「ヒューマニズムの基盤としての教養主義」が受け継がれています。大学構内に置かれている石碑に刻まれた「大学は、学問を通じての人間形成の場である」という天野の言葉には、その建学の理念が端的に示されています。

21世紀を生きる私たちが直面している複雑で多様な問題を解決するには、グローバルで複眼的な視点、しなやかでバランスの取れた人間力が必要です。獨協大学の教育・研究のプログラムは、こうした時代に必要とされる知識やスキル、問題を解決していける力、そしてこれらの前提となる自

律的な人間性を養うことを目的としてつくられています。

そのために、とりわけ教育に関しては、学部専門のカリキュラムに加え、全学部共通のカリキュラムを設け、専門分野の枠を超えた学際的なテーマを自らの力で探求していけるような場や、学んだことを実社会で生かすことができるように実技や実習科目を充実させています。

その具体的な柱となるのは、「小人数による主体的なゼミナール教育」「実践的な外国語教育」、そして「多彩な国際交流プログラム」です。

獨協大学におけるドイツ語教育の特徴

獨協大学のドイツ語教育においては、ネイティブ教員と日本人教員によるチーム・ティーチング等による言語の基礎学習から始め、ドイツ語圏の人々、社会の背景にある文化や思想を深く探求し、国際社会をドイツ語圏の視点から見る能力を備えた国際的な教養人の育成を目指しています。全国最大規模の教員陣の下、学生は高い語学力、さまざまな分野の専門知識、論理的思考力を磨きますが、その学びは、単なる言語習得に留まらず、文化、歴史、社会への深い理解を通じて、学生の全人格的な成長の促進を図るものです。

他大学にはない特徴としては、2年次以降、国際的な教養人になるための二つのコー

ス、すなわち「プロジェクトコース」（日本にいながらドイツ留学）と「リベラルアーツコース」（ドイツ語圏から世界を読む）を設けていることです。

「プロジェクトコース」では、CLIL方式（テーマの内容と外国語の学習を組み合わせたシステム）のカリキュラムで、学年に縛られることなく、自分の習熟度に合わせてドイツ語を学び、課題解決型の学習に取り組めます。そこでは、日本にいながらドイツ留学しているかのような学びが可能です。このアプローチにより、語学のみならず、実際の生活や社会で求められる実践的なスキルも身につけます。

「リベラルアーツコース」では、「ドイツ語圏から世界を読み解く」をキーワードに、ドイツ語圏の文化、歴史、政治を軸に、国際社会の複雑なテーマを学び、理解します。これは、単なる言語学習を超えた、文化的洞察と国際的視野養成への旅です。専門的なゼミに入り、学術的なドイツ語テキストの分析と議論を通じて、ドイツ語圏の豊かな文化と歴史を深く学び、国際社会で活躍できる自律的な人材に成長することを目指します。

獨協大学は世界各国・地域の多くの大学と協定を結んでいますが、とりわけドイツ語圏に関しては、ベルリン自由大学、ハイデルベルク大学をはじめ14の大学と協定を結び、さまざまな留学支援を行っています。さらにドイツにおけるインターンシップの機会を提供していることも、他にはない特徴のひとつと言えるでしょう。

グローバル教育を支える

取り組み

獨協大学では、時代の変化に先見的に対応するため、アクションプランを策定し、国際交流センターを中心に、図書館を含め関連部署が連携しながら、さらなる国際化の推進に努めています。

大学全体の取り組みとしては、実践的な外国語教育や異文化理解のための専門的な授業、留学支援はもちろんのこと、グローバル教育を支えるさまざまな環境やサポート体制を整えています。たとえば図書館に隣接する<ICZ>(International Communication Zone)は、ドイツ語・英語・フランス語などの言語に関連する雑誌・新聞を取り揃え、海外からの留学生や、言語に興味を持つ他学部・他学科の学生同士と交流したり、留学に関する講演会や報告会を開いたり、また大学院生をチューターとする学習・留学相談の場としても利用されています。<Chat Room>では、会話を中心としたレッスンを無料で受けられます。授業期間中は、ドイツ語・英語・フランス語・スペイン語・中国語・韓国語のうち複数の言語を毎日開講しており、少人数クラスで、話す力を伸ばします。さらに<英語学習サポートルーム>では、専門スタッフが個別のアドバイジングを行い、カウンセリングで英語学習の悩みを相談したり、生活スタイルに合った学習法を提案したりしています。また英語学習法を学ぶミニ講座を開設、サポートルーム通信も発行し、いつでも気軽に相談できる体制を整えています。

図書館も、大学全体と連携し、外国人留学生に向けてのガイダンスやサポートはもちろんのこと、海外への長期・短期の留学や、外国語能力の向上を考えている学生たちのために、さまざまなサポートの取り組みを行っています。

たとえば<日本学コーナー>は、日本に来た留学生が日本の事象について学んだり、これから留学する学生が外国語で日本を紹

介したりするための参考資料として役立つ資料をまとめたコーナーです。

<多読本>では、英語のほか、ドイツ語、フランス語の数多くのタイトルが置かれていますし、<AVコーナー・発話トレーニングブース>には、海外の映画も豊富にあり、映像・音声資料を使用して外国語の発音や発話トレーニングができるので、語学学習や留学準備に役立ちます。

大学図書館が果たす役割

図書館は、確かに情報を集めた単なる箱ではなく、ひとつの有機的な生き物ですから、その活動も多岐にわたります。そこで本学図書館が今後どういう方向に進むべきかを改めて考えるため、2022年に取り組むべき課題の洗い出しを行いました。その際、念頭においたのは、大学図書館が、学生の自律的な学習と教員の教育・研究活動を、また研究と教育の連動あるいは研究蓄積の教育への反映を、さらに地域の生涯学習を支える「場」となるべきであるという理念です。この課題の洗い出しの中で、次のような5つのポイントが浮かび上がってきました。

1. 学生の自律学習や教員の教育活動支援のさらなる強化・拡充
2. 研究活動支援と知の生産への貢献
3. コレクションの整備・拡充とナビゲーションの改善
4. 他機関・地域との連携と国際化の促進
5. 図書館の発信力強化

これらのポイントのそれぞれについて、さらに細かく項目をまとめていますが、ここでそのすべてに触れることはできません。どの項目も重要ですが、具体的な施策については、その重要性和実現性を考えながら、年度ごとに重点を決めています。あえてここで強調するとしたら、大きな課題である図書館の電子化(ポイント3と関連)とならんで注力が必要だと思われるのは、レファレンス機能や情報リテラシー教育の拡充(ポイント1と関連)という点だと思っています。

図書館が電子化し、情報へのアクセスがさらに便利になるのは、もちろんよいことですが、適切な検索の方法を知らず、また高度なりテラシーが不足していると、情報の海で溺れてしまいます。その意味でこれからの図書館にとっては、資料をどう探し、そこから得られた情報をどう活用するかという点についての確かなアドバイスができる羅針盤としての機能がますます重要になってきます。

情報は、ただ多ければよいというものではありません。断片的な情報を単につぎはぎするのではなく、さまざまな情報を整理し、内容を咀嚼し、それをもとに自ら思考を論理的に組み立て、外に発信できるものに鍛えていく、そういう力が、複雑で変化の激しい現代社会の荒波を乗り越えていく際には必要です。図書館は、そのために信頼のおけるナビゲーターの役割を果たすことが求められていると思います。

そのため、本学図書館でも、学術データベースの利用やライティング・サポートに関するさまざまなセミナーやガイダンスを通じて、利用者の情報リテラシー向上を支援しています。また質の高いナビゲーターを育てるため、職員がさまざまな研修に参加することを奨励し、専門的な知見とアドバイス能力の向上に努めています。

もうひとつ大学図書館として忘れてはならないのは、学生と図書館の協働という視点です。大学の目標のひとつが、国際的・学際的な教養に支えられた自律的な人格の育成にあるとすれば図書館も、学生たちの主体的な活動を促し、支援することが大切なポイントのひとつとなってきます。本学でも「BiVS(ビボス)=Bibliothek Volunteer Supporters」という学生サポーターが図書館をサポートしてくれていますが、今回の「図書館総合展」では、図書館と学生の協働でポスターセッションに出展し活動紹介を行った結果、来場者投票により約70団体中、第1位を受賞することができました。今後も、学生たちの自律的な図書館サポート活動を支援していきたいと思っています。

デジタルとアナログが共存する時代における「身体感覚と連動した読書体験」の重要性

図書館の電子化は、その圧倒的な利便性からも進めなければなりませんし、上に掲げた図書館の重点課題の中でも中心的なものとして位置づけられます。

一方でどれだけ情報通信技術が発展しても、人間の身体は原始的ですし、その認知や記憶のあり様は、身体的な感覚と密接に結びついています。「身体性」というのは、哲学的な問題で、学際的にも本質的なテーマですし、個人的にはその重要性について考え続けていきたいと思っています。しかし、デジタルネイティブ世代が成長し、ヴァーチャルな空間や認知の仕方が伸長する時代にあって、リアルな空間としての図

書館の必要性そのものが論じられ、「図書館像」が大きく変化しつつある中、貴重な価値を持つ古書や稀覯本は別として、紙の本だけに固執するというのもできないと思います。

少なくとも過渡期であるいまは、積極的に電子化を進めながら、同時に身体感覚と連動した読書体験ができる空間も工夫し、利用者それぞれのニーズに合わせ、それぞれの「居場所」を見つけれられるような、さまざまな「選択肢」を用意することが必要になってくるでしょう。

獨協大学の図書館も、現在の新図書館開館20周年にあたる2027年をめざし、大規模なリニューアル計画を進めていますが、図書館の電子化の重要性は言うまでもなく、その基本コンセプトの中心には、まさにこの<それぞれの「居場所」を見つけれられるような、さまざまな「選択肢」を用意する>という考えが横たわっています。

資料やサービスの電子化が進む中での取り組み

多くの図書館と同じように、とりわけコロナ禍以降、本学の図書館も、資料やサービスの電子化を、重点課題のひとつとして進めています。

資料の電子化については、電子書籍やデータベースの拡充、電子ジャーナルの効率的な整備に努めるとともに、データベースの学術利用を促進する内容のセミナーをたびたび開催し、その有効な活用の促進を図っています。

また本学は、「ドイツ表現主義文庫」や「鈴木信太郎文庫」をはじめとする学術的に価値の高い多くの貴重書を所蔵していますが、その電子化にも着手し、研究活動への貢献を期しています。

図書館機能についても、いわゆる「非来館型

サービス」の拡充に努め、図書館HPに「大学の外でも、図書館を使おう」というコーナーを設けて、さまざまなサービスを一覧できるようにしています。そこには、資料ナビゲーションの拡張（EDS/OneSearchなど）、機関リポジトリ、オンラインレファレンス、ガイダンス映像のオンデマンド配信、360°ヴァーチャルツアーなどの内容が含まれています。

最後の図書館「360°ヴァーチャルツアー」は2022年から公開していますが、将来的にはデジタル書架ギャラリーなどの構築への可能性を秘めています。

今後期待すること

大学図書館で働くスタッフには、今後ますます、とりわけレファレンスや情報リテラシーに関し、専門的な知見と豊富な経験が求められてくると思います。

利用者がスタッフに期待するのは、常勤、派遣、委託を問わず、信頼のおけるナビゲーターとしての役割です。また、大学図書館の場合、利用者の多くが学生であることも考えると、スタッフの親しみやすさ、あたたかい人柄が、本に親しむきっかけとなることも多いように思います。その意味で、外部業者のみならず、これからの図書館に求められる専門的な知見や経験を持ち、あたたかい人柄で本の魅力とその活用の方

法を伝えられるような人材をご提供いただき、今後もそのお力をお借りできれば、大変ありがたく存じます。



■ Staff Interview

どんな状況下でも公平かつ冷静に指示出しができるリーダーを目指して



石角 有彩さん
Ishizumi Arisa
京都市内の総合大学付属図書館で
リーダーとして勤務
2017年～

前 職では、公立中学校で非常勤講師として国語科の授業を受け持っており、授業の準備や図書委員の活動のお手伝いで、頻りに図書室に出入りする機会がありました。その中で「学校図書館の運営って結構面白いな。」と思い始めたのが、学校図書館に興味を持つようになったきっかけです。ちょうど当時担当していた中学3年生の生徒が卒業を迎える頃、現在の勤務先図書館の求人を見かけました。図書館のオープニングから1年が経過した年度末でしたので「新しい図書館だからこそ、これからどんどん面白いことや新しい取り組みが増えていくのではないかな。そういった環境で働けるのって面白いのでは？」という思いでキャリアパーワーに登録しました。

リーダーとしての成長と課題

現在はリーダーとして勤務しており、リーダーになってからちょうど6年になります。カウンタースタッフのみんなが同じような対応ができるよう、レクチャーを行っています。相談を受けた際に指示を出したりしています。また、それだけではなく報告業務もメイン業務の一つです。カウンタースタッフや委託先、さらに大学への報告や相談の中継地点としての役割もあります。長くこの仕事を続けてきましたが、「リーダーとしてまだできることがあるのではないかな、もっと成長し、もっとしっかりしていきたいな。」と日々感じています。

理想としているリーダー像は、どんな状況下でも公平かつ冷静に指示出しができるリーダーです。まだその理想には遠いと感じることもあり、自己反省することも多いのですが、特にイレギュラーな事態が発生した際に、焦ってしまい、指示を出すまでに時間がかかってしまうことがあります。また判断に迷い、他のスタッフに不安を与えてしまっていることもあるかもしれません。そうした場面でも毅然と対応できるようなリーダーを目指し、日々成長していきたいと思っています。

サービスカウンターでの役割とやりがい

今のサービスカウンターの仕事は、利用者さんと最も接する機会が多い仕事だと感じています。その分、こちらが利用者の方を見ているのと同じように、利用者の方からも見られている仕事でもあります。よく「図書館の顔」と言われますが、大切なのは、感じの良いサービスを提供すること。なかなか

か言ってもらえる機会はないのですが、「ここで相談して良かった。話を聞いてもらえて助かった」と密かにでも思ってもらえたら嬉しいです。逆に、「使いづらい。あまり良くない」と思われることがないよう、常に意識して対応したいと思っています。そのために、日々の対応の中で自分の振り舞いや言動を振り返ることが多くなりました。人前に立つ自分自身を少しずつ成長させていけるのも、この仕事のやりがいの一つだと感じています。

サポート体制とワークライフバランスの実現

定期的に営業の方や統括の方が話をしに来て、親身に相談に乗ってくださるところはありがたいなと感じています。リーダーになってからは、スタッフには相談しづらいことを抱え込むこともありましたが、優しい言葉や的確なアドバイスをいただくことで、気持ちが楽になったこともあります。また、体制面でもスタッフの人員について相談をすると、迅速に対応していただけており、そうしたサポートがあるおかげで、自分自身もメリハリをつけて働くことができていると感じます。しっかり勤務時間内で業務を終え、退勤時には退勤し、プライベートの時間を確保できています。働く時間とプライベートの時間をきっちり分けられているのは、管理体制のおかげだと感じています。これまで働いてこられた先輩方の中には、「ステップアップしたい！こういうことに挑戦したい！」といった希望に応じて、新たな職場を紹介してもらった方もおられ、そういった柔軟なキャリア支援の体制が整っている点も、とても魅力的だと感じています。

ひとり親家庭の新1年生の皆さまにランドセルを寄贈しました

12 月1日に開催された京都市ひとり親家庭福祉大会に参加し、京都市ひとり親家庭支援センターゆめあす様を通じて、ひとり親家庭の新1年生の皆さまにランドセルを寄贈しました。当日は、京都市長をはじめ多くの方が参加され、ひとり親家庭福祉のさらなる向上と充実を目指す活動報告などが行われました。
新1年生の皆さまには、小学校生活の6年間で多くのことを学び、楽しい思い出をたくさん作っていただけるよう心より願っています。



■ Support Center News

Vol.XXVIII 図書館等公衆送信サービス

令 和3年6月に公布された「著作権法の一部を改正する法律」が令和5年6月1日に施行されました。これにより、国立国会図書館や公共図書館、大学図書館等が利用者の求めに応じ、調査研究の用に供するため、図書館資料の一部をメール等で送信することができるようになりました。では実際に、図書館等公衆送信サービスを実施するにはどのような準備が必要なのでしょうか。

【特定図書館等の要件】

「図書館等における複製及び公衆送信ガイドライン」(図書館等公衆送信サービスに関する関係者協議会)によると、特定図書館等となるには以下の要件が必要です。

①責任者の配置

図書館等の館長または公衆送信に関する業務の適正な実施に責任を持つ職員のうちから館長が指名する者。

②研修の実施

著作権法、図書館等における複製及び公衆送信ガイドライン及び補償金制度に関する内容を研修項目とする。

各特定図書館等の責任者を中心に、各特定図書館等の責任において、公衆送信サービスに係る実質的な判断に携わる職員(外部事業者に事務処理を委託している場合は、当該外部事業者を含む)に対して、上記研修項目を含む研修を定期的実施すること。

③利用者情報の適切な管理

利用者情報を適切に管理するため、公衆送信サービスに係る内部規定を定めること。最低限、以下の項目は定めること。

- ・個人情報取得方法について(本人確認の方法)
- ・取得する個人情報の内容(氏名、住所、電話、またはEメールアドレス)
- ・取得した個人情報の管理(セキュリティ)
- ・取得した個人情報の更新(利用者に更新を求める・更新の手段を提供している等)

④データの目的外利用を防止し、又は抑止するための措置の内容

特定図書館等は、セキュリティ管理等を適切に行うため、公衆送信サービスに係る内部規定を定めること。最低限、以下の項目は定めること。

- ・電子データの作成に係ること
- ・電子データの送信に係ること(誤送信の防止に向けた対策等)
- ・電子データの破棄に係ること(保存期間等)

これらの要件を満たし、サービス対象利用者の要件を整理し、複製および送信のための環境を作る必要があります。また、公衆送信サービスは権利者へ補償金を支払うことが要件となります。特定図書館等では、補償金や手数料を利用者から徴収し、実績報告とともにSARLIB(一般社団法人図書館等公衆送信補償金管理協会)へ支払わなければなりません。補償金の額は右の図の通りです。

<補償金の額> (「図書館等公衆送信補償金規程」より)

図書館資料の種類	補償金算定	備考
新聞	1頁あたり500円 2頁目以降1頁ごとに100円	
定期刊行物(雑誌を含む。)	1頁あたり500円 2頁目以降1頁ごとに100円	
本体価格が明示されている図書	本体価格を総頁数で除し、公衆送信を行う頁数と係数10をそれぞれ乗ずる	1冊あたりの申請に係る補償金額が500円を下回る場合には、500円とする
上記以外(本体価格不明図書・脚本/台本含む 限定頒布出版物・海外出版物等)	1頁あたり100円	1冊あたりの申請に係る補償金額が500円を下回る場合には、500円とする

※見開きで複写を行い、図書館等公衆送信を行う場合は、2頁と数える。
現在、SARLIBが公開している参加特定図書館等は以下で確認できます。
<https://www.sarlib.or.jp/wp-content/uploads/2025/03/library-list202500307-.pdf>

【国立国会図書館の遠隔複写(PDFダウンロード)サービス】

令和7年2月20日から、紙の複写物を郵送する遠隔複写だけでなく、PDFファイルで複写物を提供する「遠隔複写(PDFダウンロード)」のサービスを開始しました。このサービスを受けることができる対象者は、国立国会図書館の個人の本登録者のみとなります。また、対象となる資料は国立国会図書館の所蔵資料(デジタル化資料を含む。)、ただし、楽譜の出版物、地図の出版物、写真集、画集、発行後1年以内の雑誌等は、著作権法その他の規定により対象外となります。複写料金は、複写物の作成に要する費用と著作権者に支払う補償金に相当する額の合計額となります。詳細は国立国会図書館のHPをご確認ください。 <https://www.ndl.go.jp/jp/copy/remote/index.html>

各図書館では、このサービスを始めるための準備が始まっていることと思われます。この機会に改めて著作権について、公衆送信サービスについて学ぶ機会をもっていただけると幸いです。

■ Information

国際教養大学中嶋記念図書館施設見学セミナーを開催しました

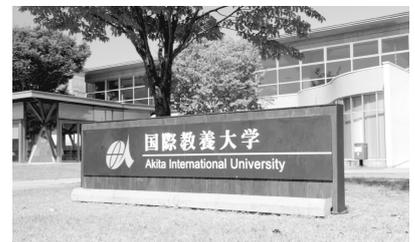
すべて英語の少人数授業、1年間の留学義務、多文化共生のキャンパスライフ等、特徴ある教育で全国より注目を集め続ける国際教養大学。そのカリキュラムを支えるキャンパスと、24時間365日開館で学生たちの学修を支える中嶋記念図書館を実際に視察いただくセミナーを開催いたしました。

冒頭、図書館長の豊田哲也様より、大学の特長、そしてそれを支える中嶋記念図書館の特長をお話いただきました。豊田先生からは、「図書館に現物の本は必要か?」「図書館での飲食の可否をどう捉えるか?」「そもそも大学に図書館は必要か?」といった問題提起がなされ、各グループ、キャンパス視察においても、考えを深めながら各施設の見学を行いました。

午後の意見交換会では、冒頭に豊田先生から問題提起のあった3つのテーマをもとに、グループごとにディスカッションを実施、各グループ、熱い議論が繰り広げられました。各グループともに、本の価値、そして図書館の価値を改めて考える発表がなされ、国際教養大学中嶋記念図書館を視察させていただくことにとどまらず、図書館の価値について改めて考えるとても貴重な機会となりました。

今回の企画にあたり全面的に御協力をいただきました図書館長の豊田哲也様はじめ、国際教養大学の職員の皆様、そして大変お忙しい中ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。

今回の施設見学セミナーには、社員研修を兼ねて当社社員も複数名参加させていただきました。参加させていただきました社員にとっても、非常に勉強になる貴重な機会となりました。図書館運営に携わらせていただく使命を改めて強く感じるとともに、より一層のサービス向上にむけ全社一丸となって取り組んでまいります。



施設見学セミナーレポートを公開中!
左記QRコードから、ご確認いただけます。

<https://www.careerpower.co.jp/service/toshoenkengaku2024report/>



■ Red Drops

ご存じですか? キャリアパワーのあかいドロップ

「This We Believe…」わたしたちキャリアパワーの信じるところ。その想いから生まれた小さな冊子が「キャリアパワーのあかいドロップ」です。出会うことができたすべてのスタッフの皆様の心に、私たちの想いをお伝えしたい。そして、一人でも多くの方の心に、その想いを留めてほしい。ずっと変わらぬ想いでお届けしています。ぜひご愛読ください。

ご希望の方に配布中です

☎ 0120-288-450 info@careerpower.co.jp



■ Information



バックナンバーをご覧ください

キャリアパワーホームページから、Capoのバックナンバーをご覧ください。紙版のバックナンバーもございます。ご入用の方は申し付けください。

TEL 075-341-2929 <https://www.careerpower.co.jp/capobn/>



第4回

はたらくよろこび 作文コンクール



入選作品は左記QRコードから、
ご確認いただけます

<https://www.careerpower.co.jp/service/wconcours-result4/>

優秀作品が
決定しました



総評

第4回を迎えた今回も、これまでと同じく、未来の夢や将来にしたい仕事について具体的に書いた作品が、最も多かったです。そういう夢あるいは目標を持つことになったいきさつを中心に述べたものもあれば、自分を見つめ直して、それらを実現するための課題を冷静に分析しているものもありました。また、「はたらくよろこび」やはたらく意味について、両親や先生など身近な大人たちを見て考えた作品もありました。いずれにしても、純粋でまっすぐな思いが、原稿用紙を通してありありと伝わってくるようでした。これも前回までと同様ですが、そのような皆さんの作文を読ませてもらって、秋晴れの空のようなすがすがしさに包まれ、すさんだ心がさらさらと洗われるように感じました。

入賞、優秀賞そして最優秀賞の作品を選考するのは、とても難しい作業でした。大変迷い悩みました。選ばれなかった作品の中にも、選ばれた作品と同じくらいに優秀な作品がいくつもありました。選ばれた人もそうでない人も、今回作文を書いたことを一つのきっかけとして、視野を広げながら、未来の自分について思いめぐらし、また、はたらくことについて考えを深めていってもらったと思います。

最優秀賞(低学年の部)

西九条小学校2年 岩本 ゆきのさん

つくってあげたシャーベットを、100歳のひいおばあちゃん「ちゃあちゃん」が「おいしい、おいしい」とたべてくれたのですね。そのときのちゃあちゃんと岩本さんのうれしそうなお顔が、目にうかぶようでした。また、だいすきなちゃあちゃんに、ちゃあちゃんのだいすきなおかしをつくらせてあげたくて、おかしやさんになりたいとおもったということも、よくつたわってきました。「おしごとをするということは、だいすきな人に、よろこんでもらえることだ」ときづけたのも、よかったですね。

最優秀賞(高学年の部)

「よろこびと一緒に」 明治学園小学校5年 能美になさん

「はたらくよろこびを知っているというよりも、よろこびと一緒ににはたらいっているとんでもない」お母さんがいらっしゃって、色々とおアドバイス頂けるといのは、本当に「最大の強み」ですね。徐々に視野を広めつつ、目標となる将来の仕事を決めていって下さい。文章の表現も構成も的確で、また、一つ一つの文字も丁寧にきっちり書かれていて、大変良い作文になっていました。お母さんにとっては、こんな作文の書けるになさん自身が、お仕事以上の大きな「よろこび」に違いない、とも感じました。

法令順守委員会

キャリアパワーは、労働者派遣法や労働基準法など各種労働法令を遵守し、常に適正な事業運営を果たすために、社内に法令遵守委員会を設置しています。定期的に派遣先を巡回、また社内監査を行ないながら、派遣契約内容を改めて見直し、法令の遵守が出来ているかの再チェックを行なっています。また、全社員に対して法令知識向上とコンプライアンス遵守の意識強化のために、定期的に研修会や勉強会を実施し、コンプライアンスの課題解決や事前防止の徹底を図っています。遵法精神を貫くことで、当社で働く派遣労働者、そして人材派遣を利用される全ての派遣先企業様に、よりいっそう満足して頂ける様、活動を行なってまいります。

派遣コンプライアンスに関する問い合わせ先

TEL 075-341-2929

MAIL support@careerpower.co.jp

キャリアパワー各支社へは ☎ 0120-154-450 にお気軽にお問い合わせください

東 京	〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル15F	TEL 03-6895-2929 FAX 03-6895-2911
大 阪	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-12-17 JRE 梅田スクエアビル2F	TEL 06-6346-2929 FAX 06-6345-1268
名 古 屋	〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅3-25-9 堀内ビル8F	TEL 052-563-2929 FAX 052-563-3511
京 都	〒600-8216 京都府京都市下京区堀小路通烏丸西入東堀小路町843-2 日本生命京都ヤサカビル4F	TEL 075-341-2929 FAX 075-341-3828
滋 賀	〒525-0037 滋賀県草津市西大路町2-5 Nビル5F	TEL 077-516-2929 FAX 077-516-2930
システムセンター	〒600-8269 京都府京都市下京区七条通堀川西入西八百屋町160	TEL 075-344-6776 FAX 075-344-6780

発行

株式会社 キャリアパワー

企画 / 制作

株式会社 キャリアクリエイト

2025年4月発行